

令和7年 11月4日

保護者の皆様へ

人間環境大学附属岡崎高等学校

校長 横山 博文

校長便り（花便り） 第10号

秋冷の候、保護者の皆様におかれましては、ご健勝のことと存じ上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

秋の深まりを、そこかしこに感じられるようになり、紅葉も各地で見ごろを迎えようとしています。秋に咲く身近な花の一つであるコスモス（秋桜）は、花の色によって花言葉が違うそうで、赤は調和・謙虚、白は優美・純潔、そしてピンクは乙女の純潔、だそうです。そのコスモスもそろそろ終わりが近づき、朝夕の冷え込みも加わって、晩秋の物悲しさが一層募ります。

さて、本日、10月31日（金）午後から、本校体育館において、ハロウィンイベントを開催しました。初めての試みではありましたが、軽音同好会による圧巻のバンド演奏に始まり、お菓子重量あてクイズ、吹奏楽部演奏、生徒・教職員の仮装パフォーマンスランウェイと続き、会場は大いに盛り上がりました。

言うまでもなく、学校の主役は子供たちです。学業とスポーツや今日のような行事を通して、学校に対するワクワク感や、学校に行けば何か楽しいことがある、と思える気持ちが高まることを期待しての行事でしたが、最後の私からの挨拶の中で、少しは伝わったように感じています。

自己否定や職業否定をするつもりは全くないのですが、教師という仕事も、知識を教えるだけの教師であるなら、巷でよく言う「AIやロボットの進化によってやがてとって代わられる職業」の一つになるのかもしれませんが、そこに互いに血の通う人間同士の成長にいかに関与するか、という視点が、これからの時代の私たち教師に求められる能力・資質になってくるように思えてなりません。

以前にも「生徒の多様性」に少し触れましたが、今日のイベント中も、3年生特進コースの生徒は大学共通テストを控え、図書室で勉強に励みました。また、明日から大会のある運動部の生徒は部活動に取り組むなど、学校は生徒の数だけ、多様性の社会を形成しています。「みんなが同じ」を全てにおいて追求するのではなく、自分と他者の違いを認め、受け入れ、尊重し合える関係こそが、それぞれの多様性を実現する鍵になると思います。

「全ての生徒が幸せに 自己を肯定し 挑戦する人に」今年度から新たに掲げた、本校のキャッチフレーズです。学校として、全ての生徒が「自己を肯定し 挑戦する」ことができる機会をいかに多くつくれるのか、学校としての、校長としての宿題だと思いつつ、今日の行事を振り返りました。

生徒の皆さん、今日もたくさんの笑顔をありがとう！そして、感謝です！